

実装活動プロジェクト名：高齢者の生きがい就労システムの社会実装

実装責任者：辻 哲夫（東京大学 高齢社会総合研究機構、特任教授）

実装支援期間：平成 25 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日

## 1. 総合評価

一定の成果が得られたと評価する。

本プロジェクトは、“セカンドライフの支援組織”として日本全国のシルバー人材センター（以下、センター）が広く国民から支持されるようになること、センターが社会的に有効に機能することで、誰もが退職後のセカンドライフの不安を覚えることなく、年齢に関わらず活躍し続けられるような未来社会を実現することを最終目標とした。実装支援期間終了時の目標（到達点）は、研究開発成果である「生きがい就労事業が培ってきたノウハウや機能」を複数のセンターの事業の中に組み込むことを試行し、その活動実績と成果（プロセスを収めた計画及びマニュアル等）を通じて、厚生労働省の「生涯現役社会づくり」に向けた政策に反映させ、この行政対応をもとに、全国 1,300 箇所のセンターのセカンドライフ支援機能の強化・拡充（生きがい就労事業機能の組み込み他）を実現することである。

柏市、茅ヶ崎市のセンターにおいてジョブコーディネーターを配置させ、センターの機能強化をしたことによって、両センターにおける新規就労者数が増加したことは大きな成果である。「高齢者の生きがい就労事業の実装マニュアル-中間支援組織とジョブコーディネーター配置に関するノウハウ集（以下、マニュアル）」を作成したことが両センターにおける実装につながっている。今後の全国への普及の足がかりを構築したと言える。しかし、一律の対応では全国への普及は難しいと考えられ、今後の各地域への普及には、それぞれの地域に対応した実装活動が求められよう。

内閣官房主催の「一億総活躍社会に関する意見交換会（第 2 回 2015.11.17）」における実装活動内容の報告、本プロジェクトの検討会への厚生労働省のオブザーバー参加等がなされた。平成 28 年 4 月の高年齢者雇用安定法改正によって、センターが取り扱える業務が拡大するとともに、臨時的・短期的・軽易な業務に限定されていた要件の緩和が施行された。また、地域における高齢者の就労促進に資する事業として、厚生労働省「生涯現役促進地域連携事業」が新たに創設された。これらより、センターでの社会実装のさらなる促進につながるものと思われる。さらに、研究開発成果実装支援プログラム(成果統合型)平成 28 年度採択「高齢社会課題解決に向けた共創拠点の構築」の成果と組み合わせること、本プロジェクトのさらなる展開が期待されることから、今後の発展に期待する。

## 2. 各項目評価

### (ア)目標の達成状況

概ね達成されたと評価する。

ジョブコーディネーターを配置し、センターの機能強化をしたことによって、柏市、茅ヶ崎市のセンターにおいて新規就労者数が増加した。両センターの今後の事業発展も見込まれる。また、マニュアルの作成によって本プロジェクトの全国展開の足がかりを構築した。他地域への実装活動も行ったが、実装支援期間中には成果に結びついていない。今後の全国への普及には、地域に対応した実装活動が求められると思う。政府機関へ提言など、国の政策への貢献につながる活動を実施したことは大きな成果といえる。

(イ)実装支援期間終了後の実装の継続及び発展の可能性

可能性ありと評価する。

柏市、茅ヶ崎市のセンターにおいては、今後も生きがい就労の機能を反映した実装活動が自立的に展開されつつあり、マニュアルを他地域に広く配布し、実装責任者が継続して活用を促して行くとのことで、全国に普及する可能性がある。ただし、地域によって本プロジェクトの受け止め方に差があると予想されることから、一律の対応は難しいと考えられる。全国を視野に入れた実装、普及を進めるには、高齢化率、産業構成、人口密度などをもとにしたモデルを構築すべきであろう。各地域での人材の育成も必要になると思う。マニュアルを活用しながらバージョンアップを重ね、各地域に普及して行くことを期待する。また、高年齢者雇用安定法改正によるセンターの業務拡大、研究開発成果実装支援プログラム(成果統合型)「高齢社会課題解決に向けた共創拠点の構築」の成果との組み合わせによる本プロジェクトの展開も見込まれ、今後の発展に期待する。

(ウ)組織体制は適正であったか

適正であったと評価する。

東京大学高齢社会総合研究機構を中核にして、柏市、茅ヶ崎市のセンターとの連携はよく、センターのジョブコーディネーターの適切な実装活動と彼らを支えるプロジェクトメンバーの組織的な実装活動は適切であった。ただし、実装した柏市、茅ヶ崎市との協力体制はできたが、他の地域との取り組みが脆弱であり、全国を視野に入れた実装組織体制とはなっていなかった。

3. その他特記事項

マスコミの報道が多く、注目を浴びたプロジェクトであった。幸福な老い(サクセスフル・エイジング)は、人類がいまだ経験したことのない新しい課題であると言われており、その新しい課題に一步踏み込んだ社会的意義のあるプロジェクトであったと考える。

以上

<別紙：評価者一覧>

	氏名	所属・役職
プログラム 総括	富浦 梓	元 東京工業大学 監事
プログラム アドバイザー	川北 秀人	人と組織と地球のための国際研究所 代表者
	澤田 澄子	元 キヤノン株式会社 CSR推進部長
	鈴木 浩	日本経済大学 大学院経営学研究科 教授／メタエンジニアリング研究所 所長
	塚本 修	一般財団法人 石炭エネルギーセンター 理事長／東京理科大学 特任教授
	西嶋 美那子	産業カウンセラー
	西村 吉雄	フリーランス技術ジャーナリスト
	前田 裕子	株式会社ブリヂストン 執行役員 環境担当
	善本 哲夫	立命館大学 経営学部 副学部長／教授
	渡辺 多恵子	日本保健医療大学 保健医療学部 准教授